

## 平成30年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立九段生涯学習館	所在地	千代田区九段南1-5-10
-----	--------------	-----	---------------

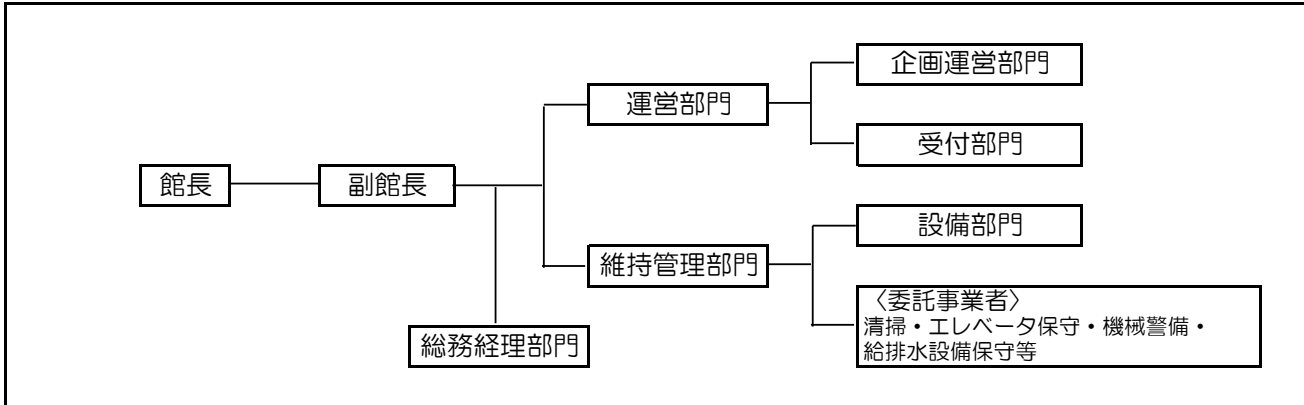
### 1 指定管理者の概要

名称	ミスノグループ		
代表団体	美津濃株式会社	代表者	代表取締役 水野 明人
所在地	大阪市中央区北浜4丁目1番23号		
構成団体1	株式会社小学館集英社プロダクション	代表者	代表取締役社長 都築 伸一郎
所在地	千代田区神田神保町2丁目30番地		
構成団体2	大星ビル管理株式会社	代表者	代表取締役社長 寺島 剛紀
所在地	文京区小石川4丁目22番2号		
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	報告期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

### 2 管理施設の概要

施設の目的	区民（区に住み、働き、学ぶ全ての人々をいう。以下同じ）の生涯学習の振興を図ることを目的とし、生涯学習活動を実践できる場の提供及び支援に関する事業を行う。
管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯学習館の施設の利用承認に関すること。</li> <li>(2) 生涯学習関係団体の育成及び連携に関すること。</li> <li>(3) 生涯学習の指導及び助言に関すること。</li> <li>(4) 生涯学習活動の普及及び推進に関すること。</li> <li>(5) 施設の保守及び維持管理に関すること。</li> <li>(6) その他館の事業及び管理運営に関し必要な業務。</li> </ul>

### 3 管理体制の状況



### 4 事業実績等

#### ア 施設利用

年度	総数	区民一般団体利用件数	事業利用件数
30	8,516	7,980	536
29	9,037	8,596	441
28	8,759	8,269	490

イ 主催事業

区民自主企画運営講座（8講座）、生涯学習教養講座（5講座）、人材バンク活用講座（7講座）、講師派遣（48団体）、児童生徒余暇事業（3講座）、家庭教育学級（9講座）、子ども自然教室、九段L.L.カフェ講座（3講座）、区内生涯学習交流事業、異世代交流事業（1講座）、生涯学習ガイドブック（2,000部）、講座講習会パウチャー制度（456件）

ウ 施設等の維持管理業務

- ・建物、設備保守管理
- ・施設清掃業務（害虫駆除含む）
- ・警備業務

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料収入	88,550,000円	人件費	50,191,034円
施設利用料金収入	8,626,550円	委託費	10,808,640円
個別指定事業収入	4,069,250円	事業運営費	39,978,931円
独自事業収入	482,350円		
その他収入	225,986円		
合計 (①)	101,954,136円	合計 (②)	100,978,605円
収支差額 (①-②)	975,531円		

6 指定管理者による自己評価

	サービス提供に関して	収支に関して
30年度	<p>施設利用においては、施設利用実績が前年度を下回る結果となった。長年に渡って活発に利用してきた団体が、高齢化に伴う活動の停止・縮小が目立つようになり、これが実績に反映したものと考えられる。今後は、団体の活動維持に対する助力や、新規登録団体設立の推進、施設を効率よく利用してもらえるような情報提供等に、より一層積極的に取り組んでいく。その一方で、年度末に実施した利用者アンケートにおいて、接客サービスに対しては、高い評価をいただいた。このような良い面は継続をしながら利用者目線のサービスを展開していく。</p> <p>事業運営面では、「交流」をテーマに据えた2つの事業（区内生涯学習交流事業、異世代交流事業）を実施した。異なる団体同士や異なる年代の方々に焦点を当てて、相互の「交流」を図ることが出来た。区内生涯学習交流事業は、指定管理となって初めての試みとなったフェスティバル形式のイベントを開催した。団体の発表会と体験会をメインプログラムに据え、お祭り感を演出して盛り上げる工夫も凝らした内容で構成した。当日は、予想を超える入場者（333名）で、盛況のうちに終えることが出来た。イベントの実施にあたっては、発表会、体験会に参加する団体の方を中心に実行委員会を形成し、準備段階から団体同士の交流を深めながら進めることが出来た。参加団体には本イベントが大変好評で、継続を望む声を多く頂戴した。次回以降も更に喜んでいただけるよう取り組んでいく。</p>	<p>収入においては、施設利用料が前年度実績に至らなかった（対前年比91.8%）。これは、一般利用団体・区民自主団体共に利用が下回ったためである。部屋ごとの実績によると、学習室タイプの部屋の利用件数の低下、前年まで比較的利用率の高い傾向にあったレクホール、音楽視聴覚室の利用件数が前年度よりも下回ったことが要因として考えられる。事業収入においては、参加費に材料費が伴う講座の参加率が好調であり、また、独自事業ではテーマの設定が支持を得たため、予算を上回った。その他売上についても、コピー機売上等が増加した。</p> <p>支出に関しては予算を下回った。人件費は職員の異動の際、新規職員への引き継ぎが必要となり、シフト上、職員数を厚く配置する時期が発生したため、予算を上回った。その一方で、光熱水費は削減することができた（対予算比87.9%）。修繕費においては、消防設備点検の結果、修繕が必要な案件が生じ、早急な対処が必要と判断したため、予算を上回った。また、事業の広報活動において、印刷にかかる費用が多く発生したため、役務費においても、予算を上回った。事業費においては、ほぼ予算通りの執行となった。</p> <p>次年度も経費を有効活用し、利用者満足度の向上に努める。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

30年度	<p>毎年実施している利用者アンケートにおいて、7割以上の利用者が10段階評価のうち、8以上の評価をつけている。これは、ホスピタリティ研修や接遇研修などスタッフ育成・指導に力を入れた結果として結びついたものと考えられる。そして、初のフェスティバル形式として「九段フェス2019」を行うなど利用者同士が関わり合えるような講座も実施している。今後も利用者がより楽しめるような講座を行うなど、利用者の意見等を踏まえた事業運営に期待したい。</p> <p>利用者から要望のあった備品等を購入し、サークルの円滑な活動に寄与した一方で、前年度よりも施設利用実績が下回ったことから、志向の変化や利用者の年齢層の把握など利用者視点に立った適切な情報発信をしてもらいたい。</p>
------	---